

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	定住対策プロジェクト推進費							
担 当 課 係 名	重点プロジェクト推進室	-		係	作成者	高倉正人		
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ		
	基本計画	定住対策の推進						
	主要施策	住宅、雇用情報の提供				40		
予 算 費 目	一般	会計	2 款	総務費	1 項	総務管理費	6 目	企画費
事 業 期 間	平成 19 年度 ~ 平成 20 年度			新規 / 継続の区分			新規	
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理							
根 拠 法 令 等								
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務							
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助							

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	市民（若者を中心に人口流出が続き、少子高齢化の進行による人口減少が大きな課題となっている）
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	仙北市の定住人口 3 万人の確保を図るため、幅広く定住対策に取り組む。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	雇用環境の整備や企業誘致の促進、若者やUターン希望者、団塊世代の受け入れ体勢の強化、子育て支援や保育体制の充実などを推進する。

【事務事業の推移】

（単位：千円）

項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	定住相談者数	人	27	
		フォーラム参加者数	人	70	
	成果指標	定住者数	人	6	
		空き家利用登録軒数	軒	6	
投下コスト	項 目	総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費（人件費を除く）(A)			631	
	財源内訳	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源		631	
	人件費 (B)		—	16,142	
		職員数	—	2.00	
		職員平均人件費	—	8,071	
	(A) + (B) 投下コスト		—	16,773	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト (円)		—	621,222	
			—	239,614	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	534	

【事務事業の今までの成果】

空き家バンクを開設し、空き家情報を提供している。定住相談も多く、空き家の現地案内も行った。スローライフモニターツアーに107名の応募があり、ふるさと定住フォーラムに70名が参加した。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	定住確保に努めるため、空き家バンクの開設やスローライフモニターツアーを実施する自治体が増えている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	若者の流出を防ぐため、雇用の場の確保やUターン希望者の受け入れ態勢を整えてもらいたい。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
A	A	現状のまま継続（実施）	若者の流出、少子高齢化による人口の減少は加速している。受け入れ態勢の整備を推進するなど、早急な対策が必要なため、現在の事業を継続することで、定住人口の確保につながると判断した。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B	スローライフモニターツアーなど定住者の確保に成果を上げている。 今後は、更に定住人口の確保につながる施策の充実（拡充）を図る必要があると考える。

一次評価診断図

